

「沼津市原・浮島地区まちづくり構想」

2017年10月30日 サンフロント21 懇話会

■要旨

静岡新聞社・静岡放送東部総局が主催するサンフロント21 懇話会（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行会長）は、懇話会会員であり沼津市西部地区で「道の駅」構想を推進している沼津市商工会（大村保二会長）から同地区の将来像を描けないかとの要請に呼応し、JR新旅客駅や新スタジアム建設を含めた「原・浮島地区まちづくり構想」を策定した。

■背景

原・浮島地区は東海道の宿場町、白隠禅師ゆかりの地として歴史・文化資産に富む地区である。だが沼川の水害懸念、国道1号線バイパスのほかは東西、南北とも交通インフラが脆弱なことなどで開発が遅れていた。この地域が県による新沼川放水路の着工、東名、新東名のスマートIC完成、東駿河湾環状道路の西進予定などから将来の開発可能性が高まっている。他方、サッカーJリーグに今季新参入したアスルク沼津は現在、J3上位で活躍中。実力チームとしての可能性を秘める一方で、ホームである県営愛鷹広域公園多目的競技場は、J2昇格や、さらに同チームが目指す10年後のJ1昇格には改修しても観客席が足りず、またJR駅からは遠い。このためJR駅近くでのスタジアム建設がサポーターや市民の願望となっている。

■構想概要

- ・理念 時空を超え、人・モノ・情報が行き交う複合交流拠点の創出（周辺幹線道路の整備と新旅客駅、新スタジアムにより新たな人の流れとにぎわいを創出）
- ・全体像 新旅客駅と複合型スタジアムを核に、道の駅・物流センターゾーン、健康文化タウン、白隠の郷を配置。南北交通円滑化のためのアンダーパスなど道路整備を促進。

■ゾーン

- ・道の駅 地元の農産物や農産加工物などとともにAOI-PARCと連携し、新しい農産物も扱う。
- ・新旅客駅 鉄道高架事業で新貨物ターミナルとして位置づけられている東海道線原駅と東田子の浦駅の間に新貨物ターミナルとともに設置。
- ・複合型スタジアム 2万人収容を想定。新旅客駅に近接または徒歩圏内に整備。防災拠点と日常的な賑わい機能も追加する。
- ・物流センター 東名、新東名のスマートICやAOI-PARCとのアクセス向上を材料に物流拠点を浮島に誘致。
- ・白隠の郷 統一感ある街並みや散策路、桜並木を整備。来訪者も市民も楽しめるまち形成を目指す。